

ビジネスパーソンのための

ダチョウ抗体を使った

最新マスクから、イザという時の遠隔勤務の方法、まで

# 新型インフルエンザ

# 対策マニュアル

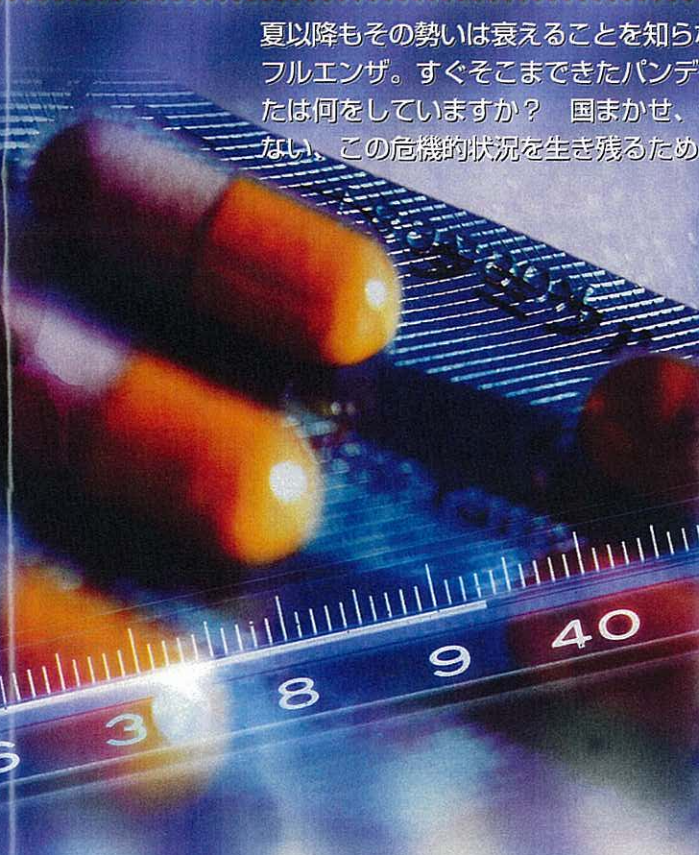
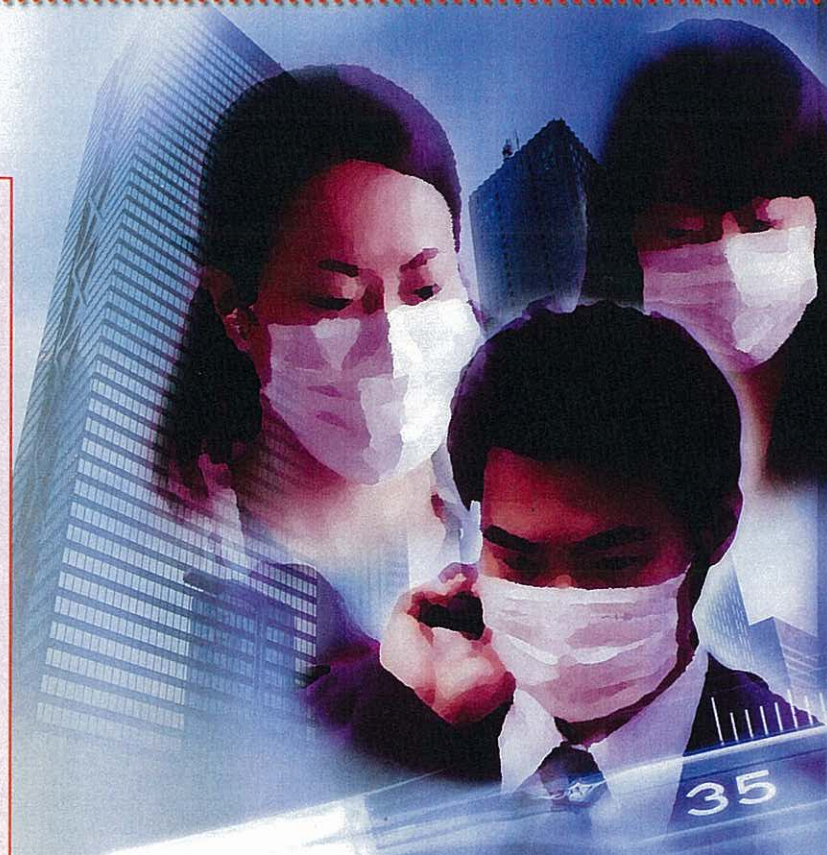
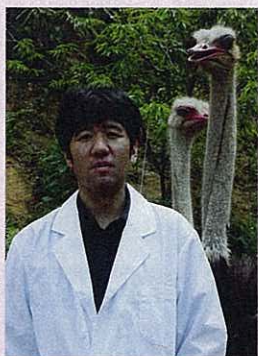
DIME SPECIAL 2

夏以降もその勢いは衰えることを知らないH1N1新型インフルエンザ。すぐそこまで来たパンデミックに備え、あなたは何をしていますか？ 国まかせ、会社まかせではすまない、この危機的状況を生き残るためのノウハウとは？



↑ダチョウ抗体をまぜた納豆タレと納豆のWパワーで腸内環境を改善。機能性を持たせた「納豆ちから」(アサヒ食品工業)が10月中旬からネット販売される。価格未定。

→京都府立大学大学院教授・塚本康浩氏。獣医学博士。ダチョウ卵からインフルエンザウイルスに強い抗体を開発し数々の賞を受賞。



各国が強毒性のH5N1新型インフルエンザへの対策を進めてきた中で、予想に反して発生した今回のH1N1新型インフルエンザ。京都府立大学大学院の塚本康浩教授は、ダチョウの卵で、H5N1、H1N1各ウイルスに対抗可能な抗体を開発。昨年、P.98で紹介するダチョウ抗体マスクを作った。「メスのダチョウに無毒化したウイルスを注射して体内に抗体ができると、卵の中に抗体が移行します。マスクの表面にこのダチョウ

## USに続いて海外で登場!! ダチョウ抗体の可能性がある。

抗体を塗り、ウイルスの感染力を失わせる仕組みです」  
ダチョウは免疫力が高く、病気に癒させる力を持つ。塚本教授はこのパワーに着目。鶏卵の25倍もあるダチョウの卵で抗体を作ることの思いをついた。この夏にはノロウイルスや大腸菌などに対抗できる抗体も開発し、納豆タレに加えた。納豆はそれ自体に腸内環境を整える作用があり、毎日食べていると免疫力のアップにつながる。免

疫力が高ければインフルエンザに感染しても重症化を防げるといわれ、腸内環境の整備はその第一歩。ダチョウ力に期待したい。

塚本康浩・著「ダチョウ力」 話題のダチョウ抗体マスクの開発をめぐる爆笑の科学エッセイ。1365円(朝日新聞出版)。



てしまえば、それだけで企業の生産性は著しく低下する。特に日本では自宅などの遠隔地から勤務するテレワークのインフラや制度導入が遅れているため、その影響はより深刻になるだろう。  
感染が蔓延し自宅待機する人間が増えれば、個人消費が鈍る可能性も高く、景気も一段と悪化する懸念がある。国内の景気後退は自宅待機による生産性の低下と相まって企業業績の悪化を招き、企業の投資意欲や雇用情勢にも影響が出るだろう。その結果、収入が減る、雇用が安定しなくなるなどの事態が生じる危険性すらある。新型インフルエンザは人間だけでなく経済をも思わせる病なのだ。

今まで新型インフルエンザ対策は国や企業を中心に行なわれてきたが、もはや社員にとっても決して人ごとではない。自分が罹患すれば言うに及ばず、家族の罹患による自宅待機や複数の同僚の罹患による事業縮小が、すべて自分にはね返ってくるからだ。  
そこで今回の特集では、まずいかにして感染から身を守るか、そして万が一、自宅待機になった場合にどうやって仕事を継続するか、さらには自分が感染した場合の「果敢もり」対策といった観点から、ビジネスパーソンのサバイバル術を考えてみたい。これらは鳥インフルエンザなど強毒性の発生時にも助けとなるに違いない。

2009年5月以来、いわゆる豚インフルエンザ、H1N1新型インフルエンザAの蔓延が続いている。当初の予想に反して夏場にもその勢いが止まることはなかった。もともと豚インフルエンザはメキシコ周辺で流行が始まったとされており、鳥インフルエンザの鳥から人への感染もインドネシアやタイなどで被害が出ている。これを考えれば、新型インフルエンザが季節に関係なく広がることは当たり前だったのかもしれない。企業の多くは主に社内での感染拡大を防ぐため、急な発熱、全身倦怠などの症状が社員や同居する家族に生じた場合には、自宅待機を命じている。社員が一人暮らし

の場合は症状が治まれば長くても10日で復職することが可能であろうが、同居する家族がおり、数日の時間差で次々に感染したケースでは、復職に20日前後かかる可能性もあるだろう。  
1人の罹患者が倍の2人を新たに感染させていると言われる豚インフルエンザの強い感染力と、新型であるがゆえにほぼ全人類が免疫を持たないことを考えれば、企業は最悪全社員が同じ時期に感染し、業務が完全停止するリスクを考えなければならぬ。現在、企業には自宅待機を命じるほかに最悪のシナリオを避ける方法がない。全員が同じ時期でないにしても、次々と10〜20日の間、現場を離れ

### The pandemic Columns

「同居家族が感染した場合、原則として自宅待機」は34%! この時、給与はどうなる?

9月上旬に財団法人労務行政研究所が民間企業360社に対して行なったアンケートによると、同居家族に感染が確認された場合、「保健所の判断を待たず、原則として自宅待機とする」という企業が約34% (1000人以上の大企業では約41%) もあるという。このうち約51%は通常どおり賃金を払うと答えたものの、賃金や休業手当などは一切支払わないという企業が15%もあった。ビジネスパーソンの給与は一体どうなるのだろうか?

いわゆる「感染症予防法」に基づき当局から外出自粛要請が出された場合、企業は「賃金」「休業手当」とともに支払いの必要はないと考えるのが一般的だ。一方、企業の判断による自宅待機の場合、賃金の代わりに、平均賃金の6割相当額以上の休業手当になる可能性がある。しかし、感染を隠して出勤すれば結果として感染を広げ、業務が停止し、職を失う危険性さえある。まさに生活を直撃する問題なのだ。



# 新型インフルエンザから身を守るサバイバルグッズ

ワクチンなどの対策がまだ十分でない以上、自らの感染を遅らすには日頃から高い危機意識を持って行動するしかない。ここではそのために必要なアイテムを厳選して紹介する。

## 普及タイプのマスクはどんな基準で選ぶ?

高性能マスクは基本的には使い捨てのうす一枚の値段が高価なため、感染の広がり方や感染のリスクを考えて使い始めるタイミングを決めるのが現実的だ。それまでは普及品の不織布製マスクを使用することになるが、約0.1ミクロンの新型インフルエンザウイルスは咳やくしゃみの際に最も多く発生する約5ミクロンの飛沫（ちなみに花粉の大きさは20〜30ミクロン）に乗って拡散すると考えられるため、最低でもこの飛沫ウイルスをブロックできるものを選びたい。



### 抗菌効果のある銀イオンを採用した立体型マスク

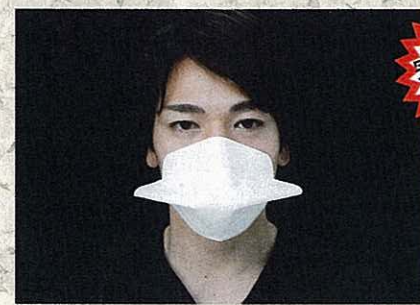
ユニ・チャーム「ユニ・チャーム 超立体マスク ウイルスガード」  
抗菌効果のあるAg+ファイバーフィルターを含む3層構造の高密度フィルターで飛沫ウイルスを強力にブロック（3ミクロンの粒子を95%以上カット）。「ノーズフィット」によりフィット性も高い。3サイズ展開。実勢価格約700円（5枚入り）。

## 高性能マスク



### 顔に貼り付けるタイプの完全防御型マスク

アース製薬「ウィルガード バイラマスク」  
耳バンドタイプの場合、装着の仕方が悪いと隙間ができてウイルスなどが浸入する可能性があるが、その問題を解決した完全密着シールドタイプのマスク。低刺激粘着式のフェイスシールドで顔に張り付ける。N99ながらバリア性と通気性を両立した立体構造により息苦しさも低減。1枚入り945円/5枚入り4463円。



完全密着  
&N99

### H1N1ウイルスの感染力を劇的に抑えるダチョウ抗体

クロシード「抗体ff（フォルテシモ）」  
京都府立大学大学院・塚本康浩教授の研究により商品化されたダチョウ抗体を使用した画期的なマスク。ダチョウ抗体フィルターにはインフルエンザウイルスに選択的に結合するIgy抗体が100兆個以上敷き詰められ、ウイルス表面の突起を覆って、リスクを低減する。6720円（男性用Rサイズ20枚入り）。



### 3μm以上のウイルスを含む飛沫を99%カット

ダイワボウノイ「アレルキャッチャーマスク」  
信州大学と共同で開発された花粉やダニなどのアレルゲンに対する吸着繊維技術を開発させ、抗ウイルス機能も持たせた多機能日本製マスク（京都産業大学鳥インフルエンザ研究センターとの共同開発による素材を使用）。6300円（Web販売価格。レギュラーサイズ・30枚入り）。全国のコンビニでも販売中（2枚入り・実勢価格約400円）。

アレルキャッチャー

### 普及タイプに加え、パンデミック用に備えておきたい

高性能マスクはN95やN99といったフィルター性能の高いものと、ダチョウ抗体マスクのように抗ウイルス機能を備えたものに大別される。N95やN99は米国労働安全衛生研究所（NIOSH）が定めた工業用規格で、粉じんやウイルスなどの0.1から0.3ミクロンの微粒子を95%以上除去できるのがN95、99%以上除去できるのがN99だ。新型インフルエンザウイルスの大きさは約0.1ミクロンといわれ、感染蔓延期にも効果が期待できるが、N95やN99のフィルターは想像以上に息苦しく、日常生活で常時装着するには向いていない。そのため最近では、より一般的なマスクに近い使用感ながら抗ウイルス機能を備えた後者のようなマスクに注目が集まっている。



### 「超立体マスク」にN95タイプが登場

ユニ・チャーム「ユニ・チャーム 超立体マスク ウイルスガードN95」  
同社の「超立体マスク」シリーズにこの秋追加されたN95タイプ。銀イオンでマスク表面を抗菌加工した「6層構造の高機能フィルター」で飛沫ウイルスの浸入をブロックし、「ノーズフィット」と「調節ラバーバンド」で顔との隙間を低減する。実勢価格約800円（1枚）。

N95

## 手指消毒剤

外出先から帰った際の使用を習慣づけたい

今やオフィスや公共施設などではすっかりおなじみとなった手指消毒剤。インフルエンザは飛沫感染だけでなく、手や指による接触感染にも注意が必要だ。なお、アルコール度数がおもね60%以上は殺菌効果がそれほどないと言われている。

### 保湿剤配合のアルコール手指消毒剤

アルボース「アルボース」  
アルコール分59%の非危険物タイプ（P.104参照）。塩化ベンザルコニウム配合で殺菌効果が高く、保湿剤配合で手に潤いを与える。指定医薬部外品。実勢価格約2700円（1ℓ）。



## 空間防衛



大幸薬品「クレベリンジェル」  
フリーラジカルによる特異的な酸化作用でウイルスや菌を除去する二酸化塩素を、特許技術によりゲル内に長期保存した据え置きタイプの製品。2100円（150g）。スプレータイプなどもある。



### 空気中に浮遊するウイルスや菌の生存率を下げる

室内の空気中に漂うウイルスを除去する「空間防衛」。最新動向として注目なのは、大幸薬品の「クレベリン」だ。これは低濃度の二酸化塩素ガスによってウイルスや菌を除去するというもの。二酸化塩素ガスについては、マウスを使ったインフルエンザAウイルス（H1N1）に対する予防効果についての論文も発表されている。効果についてはパナソニックのナノイー空気清浄機ではパナソニックのナノイーシャワーのプラズマクラスターがウイルス一般に対しての効果もうたう。

### たとえ、高性能なマスクを使ってもマスクと顔の間に隙間ができては意味がない!

N95やN99などの高性能マスクは正しい装着をしないと頬や顎、側面などの隙間からウイルスが入ってしまいその機能を発揮することができない。マスクが正しく装着されているかをテストするには、甘味料のサッカリンを使うとよい。マスクをしっかり顔に密着させてからサッカリンを顔に近づけ、しばらく呼吸する。この時、口の中に甘味を感じてしまったら、マスクと顔の間に隙間があるということだ。



YouTubeには医療従事者向けのN95マスクフィットテストビデオもアップされているので参考にしたい。  
[www.youtube.com/watch?v=kHn11pikC8](http://www.youtube.com/watch?v=kHn11pikC8)

## 対策パック

### 防犯・セキュリティのプロが選んだ対策パック

セコム「新型インフルエンザ対策パック〜個人用基本パック」  
「信頼される安心を、社会へ」という同社ならではの備蓄基準で厳選された企業の社員向けの対策パック。ダチョウ抗体を塗布したフィルターを採用した立体マスク（50枚）、スプレータイプの手指消毒剤、バッテリーレスで使える液晶体温計、予防マニュアルがセットになっている。8925円。ダチョウ抗体マスクはカップ型、サージカルタイプの個別商品も販売（クロシード製）。



### インフルエンザ対策に必要なものが一度に揃う

今回の新型インフルエンザのみならず、強毒性の鳥インフルエンザをも視野に入れた主に企業におよびその従業員向けの対策パックも増えてきた。こうしたパックのメリットは、厳選された高品質な商品を信頼できる販売ルートから入手できる点にある。

パンデミックが起きると医療機関などに患者が殺到し、通常であれば救える患者が死亡する、医薬品の供給が間に合わないなどの現象が表われる。日々増加する死者数にワクチンや抗インフルエンザ薬などの不足感が加わると、社会的なパニックが起こる可能性も高い。新型インフルエンザの流行は抑え込めるものではないかもしれないが、感染の発生を緩やかなものにしてこのような混乱を起させないことが重要だ。対策グッズの本当の目的はそこにある。

特に気になるのはマスク選びだが、選択の基準として挙げられるのは数値や特殊機能。だが数値に関しては、ネット通販などで「相当」などの曖昧な表現があるため注意が必要だ。過度に表示に頼らず、信頼できる医療メーカーや販売ルートから入手されることをおすすめしたい。また、自分の顔に合わないケースもあり、いざという時まで使わないのではなく、事前に試してみることも必要だ。